

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1123 2013年10月号

第39四国林政連絡協議会を開催

9月10日、香川県庁において四国林政連絡協議会を開催しました。
【詳細は2頁】



四国林政連絡協議会会長新木局長挨拶

四国林政連絡協議会を開催

《企画調整課》



九月一〇日、香川県庁において、四国各県の林務担当部局、(独) 森林総合研究所四国支所、同林木育種センター関西育種場、同森林農地整備センター中国四国整備局参加のもと、林野庁から担当官の出席を得て第三九回四国林政連絡協議会を開催しました。

開会にあたり協議会会長の新木四国森林管理局長から『本日の協議会の目的は「四国地区における民

有林行政と国有林野の管理経営との連携強化を図り、森林の適正な整備及び林業・木材産業の振興」となっており、国有林野事業が今年四月に特別会計から一般会計に移行した趣旨から大変重要視しており、今後とも、ご参加の各構成機関との連携を更に密にする体制を構築して参りたい。』と挨拶がありました。

次に開催県である香川県の工代環境森林部長と林野

庁計画課齋藤企画班担当課長補佐から挨拶がありました。

続いて、「四国山の日賞」選定団体の報告、林野庁から森林・林業を巡る最近の動きについての説明が行われ、その後、各機関から木材の利用拡大、木質バイオマス利用、里山林の再生等についての取組状況、森林総合研究所における各種研究事例や国有林との連携の状況について説明があり、これらの説明に関して各機関からは活発な意見や要望が出され、有意義な意見交換が行われました。

国有林材供給調整

検討委員会の開催について

《資源活用課》



林政審議会の提言を受けて、四国森林管理局では、国有林材の供給において、木材価格急変時の供給調整機能を発揮するため、専門

的な観点から供給調整の必要性、実施方法について意見を求めることとし、「四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を設置しました。

今回、木材の生産、流通、加工等に係る有識者の中から八名の委員を選任し、「第一回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を九月二日に開催しました。

検討委員会では、高知大学名誉教授の川田委員を委員長に選任した後、四国森林管理局管内の木材需給、木

国有林材供給調整検討委員会



材価格の動向等について意見交換等が行われました。

検討の結果、「木材価格・在庫等の状況や各委員の意見がまとめられました。」との意見が踏まえると、現時点では、国有林材の供給調整を行う必要はない。」との意見がまとめられました。



四国最大級の製材規模とされています。

なる「高知おおとよ製材」の落成式が九月二〇日、高知県大豊町で開催されました。

「高知おおとよ製材」は、高知県の森林資源の有効活用を図ることとして、全国トップの大手集成材メーカーを核に原木集荷役の高知県森林組合連合会、地元大豊町などが出資して構成

落成式には、高知県や大豊町、林業関係者ら約二五〇人が出席し、当局からも新木局長、鶴園森林整備部長等が出席しました。

中島社長や尾崎知事からは、「高知、嶺北の山が宝の山になるよう一歩でも近づきたい」、「高知県の強みである森林資源を活かすことが地域活性化のカギと

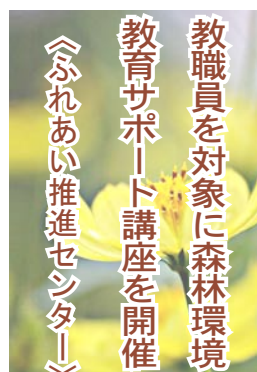
なる」とそれぞれ抱負が述べられました。

当面は年間五万㎡の丸太を加工し約一〇億円の売り上げを目指すこととしており、三年目以降のフル稼働時は、年間原木消費一〇万㎡、年商二一億円の計画となっています。こうした動きをうけ、四国森林管理局ではシステム販売等の実施により、安定的な木材供給に向けた取組を一層推進することとしています。



落成式でのテープカット
【向かって右から二番目新木局長】

各地のたより



ふれあい推進センターでは、平成一九年度から森林環境教育に関する指導者の裾野の拡大を目的として、教職員の方々を対象に、研修会「森林環境教育サポート講座」を高知県と愛媛県で開催しています。

今年度は、七月二五日に高知県四万十市の市立中村南小学校で、八月二日に愛媛県宇和島市の市立宇和津小学校で開催し、八名の先生方が受講しました。



講座の内容は、「当センターの活動、森林環境教育の重要性と森林の機能」及び、当センターが教科書補完プログラムとして作成した「空飛ぶ種子」「土壌にすむ生物」「炭焼き体験」「木工クラフト」を実施しました。

「空飛ぶ種子」では、植物が風や動物を利用するなど、様々な方法で種子を散布することを紹介し、アルソミトラ（東南アジア等に自生するウリ科の植物）やマツ、ニワウルシ等の種子模型を自分たちで製作し、飛ばして楽しみました。

「土壌にすむ生物」では、約一ヶ月前に校庭に埋めて